

## ヤスリ製作関係

ヤスリは本来ノコギリの目を立てる道具として製作されてものであり、ノコギリは建築用材を切りだすための必需品であったことから、かなり古くからヤスリは用いられていた。

しかし、精巧なヤスリは江戸中期に会津方面から製作技術が導入されたと伝えられている。

大正末期から昭和初期のころまで、ヤスリの目立ては手作業で行われていたが、現在はすべて機械化されている。

ヤスリの材料は特殊鋼である。作業工程は、材料の寸法を取り、三角タガネで切り、火造り場で赤め、ヤスリのおおまかな形を作る。

さらになまして、金床で材料を槌でたたいて平らにしたり地金をしめる。そのあと、削り場でセンを用い表面をきれいにする。

最後に目立て場で石床を台にし、敷金、槌、タガネを使いヤスリの目を立てる。その他の用具としてハシ、コミ押さえなどがある。

ヤスリの種類は多く、ほとんどがノコギリ用（大刃ヤスリ・大中小挽切・ヒシヤスリ・本中・相中などがある）として使用されている。

ヤスリ製作関係資料一式は、燕市産業史料館に展示されています。

燕市産業史料館 燕市大曲 4330-1 TEL.0256-63-7666